

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 61人 |
| ② 算数 | 61人 |
| ③ 理科 | 61人 |

5 留意事項

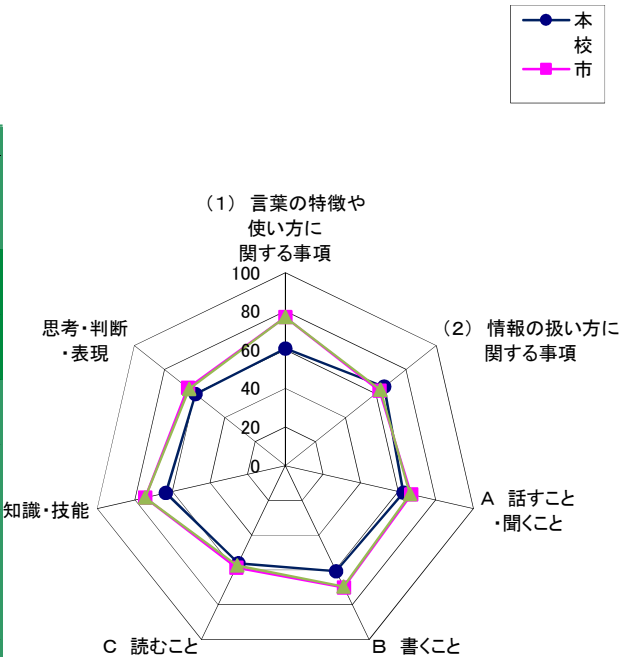
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	60.7	76.9	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	65.6	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	67.2	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	62.8	67.0	66.3
	B 書くこと	60.7	70.0	69.5
	C 読むこと	56.1	58.6	57.5
観点	知識・技能	63.5	74.5	74.5
	思考・判断・表現	59.5	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●既習の漢字の書き取りに課題が見られる。 特に、同訓異字の書き取りに課題が見られる。	・同訓異字の漢字練習の際は、読みだけでなく意味も対比させて理解できるよう、意味に応じた複数の例文を提示して漢字を書いたり意味の違いを明確になるような短文と作らせたりするなど、指導を工夫する。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解することができている。ウェビングマップを取り入れて、短歌を作ったり自分の考えをまとめて文章で表したりする活動で、ウェビングマップを取り入れてきた成果であると考えられる。	・今後も、思考を広げたりまとめたりするツールとして、ウェビングマップを活用し、情報を論理的な構造に整理させたり、語句間の関連性やつながりの理解を深めたりするなど、思考を可視化した授業を展開していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●言葉の変化についての資料や他者の経験を読み、要約したものを選択するということに課題が見られる。	・昔の言葉の言い回しにも慣れることができるよう、時代の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて、自分たちが普段使っている言葉とは異なる言葉や世代による言葉の違いを調べたり、読書時間に様々なジャンルの本に挑戦させたりするなど、指導を工夫する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○日常生活の話題から、集めた材料について考えて伝え合う内容を考えることができていた。授業での話し合い活動などの機会を多く取り入れている成果であると考えられる。 ●自分の聞きたいことに応じた話の内容を捉える問題に課題が見られる。	・今後も、グループでの話し合い活動を取り入れ、疑問に感じたことを相手に質問したり、自分の考えを表現したりする活動を多く取り入れる。また、ハンドサインで他者と意見が違った時に、活発に意見交換を行わせ、相手の考えとの違いを比較しながら自分の考えをまとめられるよう指導していく。

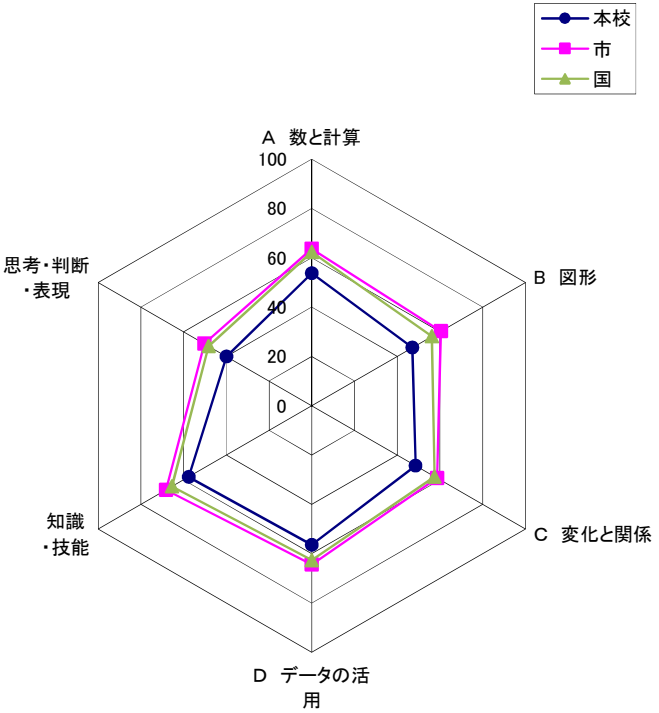
B 書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。</p>	<p>・目的に応じて必要な情報とそうでない情報を区別する活動を取り入れる。</p> <p>・自分の考えが文章で伝えられるよう書く活動を授業中や宿題等で取り入れていく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じ。</p> <p>○文章と図を結び付けて分かることを選択することが比較的よくできている。図表が文章のどの部分と結びつくのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり整理したり刷る活動を取り入れてきた成果が表れていると考えられる。</p> <p>●複数の資料を結び付けて読み、資料の言葉や文を取り上げてまとめることに課題が見られる。</p>	<p>・今後も、様々な教科で図表やグラフ、写真や挿絵などの資料を活用し、目的に応じて必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考えたりしながら読むことができるよう指導していく。</p> <p>・複数の資料を結び付けて読む活動を設定し、どの部分がどう結びつくのかを、丸や四角で囲んだり線などでつないだりするなど、視覚的に明らかにしながら読む指導を行うようにする。</p>

宇都宮市立西が岡小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	53.7	63.6	62.3
	B 図形	47.1	60.4	56.2
	C 測定	41.8	56.9	54.8
	C 変化と関係	48.6	58.6	57.5
	D データの活用	56.4	64.4	62.6
観点	知識・技能	57.7	68.3	65.5
	思考・判断・表現	40.0	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、県の平均より低い。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題は比較的よくできている。多角的な視点で比較・分析を行う活動を取り入れた成果であると考えられる。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。	・問題場面を具体的に読み取ったり、文字に順序良く数をあてはめたりして、問題解決に生かせるようにするために、これまで学習した□や文字、数直線などを使って、問題場面を把握し、伝え合う練習を意識して取り入れていく。
B 図形	平均正答率は、県の平均より低い。 ●角の大きさについての理解に課題が見られる。	・角の大きさの理解において、図形の辺の長さの大小と角の大きさの大小とを混同している傾向があるため、角の大きさを辺の開き具合として捉えられるよう、円を重ねていろいろな角度を作る活動を取り入れたり、図形間の関係や大きさの判断をする際、辺の長さだけでなく、角の大きさにも注目して図形を多面的に考察するような活動を取り入れながら授業実践をしていく。
C 変化と関係	平均正答率は、県の平均より低い。 ○伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量の見だし方について求める問題が比較的よくできている。具体的な事象を通して数量の関係性について互いの考えを共有しながら、授業に取り組んだ成果であると考えられる。 ●伴って変わる2つの数量の関係に着目し、解決方法について言葉をまとめて説明する問題に課題が見られる。	・問題文の中から数量の関係を示す言葉を活用しながら自分なりに考えをまとめさせる授業実践に努めていく。抽出したキーワードを使って、「○○が△△になると、□□が◇◇になる」といった短い文で数量の関係を表現させていく。そのことを、児童相互考えを共有する活動を取り入れ、自分の考えが整理され、他者の考えと比較しやすくなるように取り組んでいく。さらに、答えを導き出した根拠や思考プロセスを、グループ内で互いに訊きあう時間も設定する。「なぜその式になったの?」「その考えのどこがポイント?」といった問いかけを通して、自身の考えを言葉で説明する機会を増やすことで、自分なりに数量の変化と関係についてまとめさせるようにしていく。

<p>D データの活用</p>	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。</p> <p>○簡単な2次元の表から条件に合った項目について回答する問題が比較的できている。表の縦軸と横軸の関係性を本質的に理解させることを意識しながら、「なぜその答えになるのか」という思考過程を言葉で説明する活動を繰り返すことで、論理的思考力と表現力が向上した成果であると考えられる。</p> <p>●一方で、簡単な2次元の表から条件に合った項目について考えた理由を説明する問題に課題が見られる。</p>	<p>・これまでの2次元の評価表に、さらに縦軸や横軸を追加したり、複数の表を組み合わせて考えるような、応用問題にも引き続き取り組んでいく。また、「どのような条件を設定すれば、この項目が答えになるか？」といったように、答えから条件を導き出すような逆の思考を促す授業展開の工夫にも取り組んでいく。グループワークを取り入れ、互いの思考プロセスを説明し合う機会を増やすことで、互いの考えを聞きあったり、より効率的な解決策を発見させたりする力を育んでいく。そうすることで、児童生徒が単に情報を読み取るだけでなく、それを活用して新しい価値を生み出すような思考力を育んでいきたい。</p>
-----------------	---	---

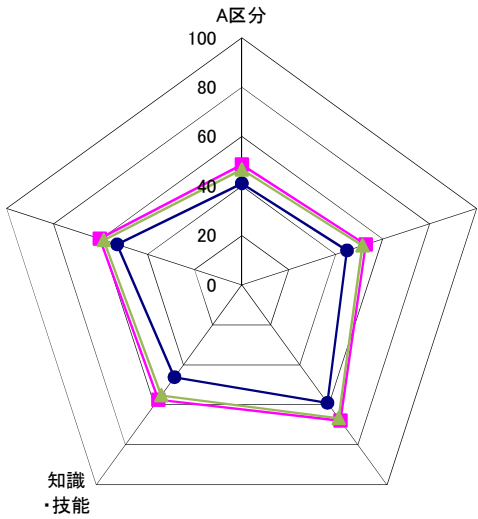
宇都宮市立西が岡小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A区分 「エネルギー」を柱とする領域	41.0	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	44.8	52.8	51.4
	B区分 「生命」を柱とする領域	41.4	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	59.0	67.9	66.7
観点	知識・技能	46.3	57.5	55.3
	思考・判断・表現	53.0	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			

思考・判断・表現



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかを見る問題はよくできている。具体物を利用して、体験的に学ぶ学習を行った成果であると考え、今後も具体物を利用した実験の学習を行っていく。 ●乾電池の直列つなぎについて答える問題に課題が見られる。	・直列つなぎと並列つなぎの違いによる電流の大きさを、豆電球の明るさの違いにより比較させ、実験的な学習を通して知識を確かなものにする。 ・正しい直列つなぎを理解させるために、児童に色鉛筆を使って回路上の導線を一本の線でなぞらせ、電流の道筋が一本しかないことを確認させる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○海にある氷がとけることについて、氷が氷に変わる温度を根拠にして考える問題の正答率は、ほぼ全国平均である。 ●身の回りの金属について、電気を通すか磁石に引きつけられるか、それぞれの性質について答える問題に課題が見られる。	・水の温度による状態のうち、氷と水の変化は見える変化なので理解しているが、水→水蒸気、湯気→水蒸気の変化については、水蒸気が見えない変化であるので理解できていないため、存在を確認できるような観察・実験を工夫していく。 ・金属の性質について、電気・磁石を用いた実験をもとに、共通点と相違点を整理し理解できるようにする。また、身の回りの物に金属が使われるのは、それらの性質の利点を生かしていることに気付くような指導を工夫していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○レタスの種子の発芽の結果から、見出した問題を書くことについての正答率は、全国平均に近い。 ●特にヘチマの花のおぼなとめばなの図を見ておしべとめしべをみつけて、どのように受粉するかを書く問題についての課題が見られる。	・理科の教育課程に基づいて実際に観察させることを必ず行い、体験的な学習活動を意識して取り入れていく。 ・花粉の役割について実験を通して理解するとともに、野菜や果物の実の育ち方について探究できるような指導を工夫していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、土の量と水の量の条件を同じにすることができるかどうかを見る問題はよくできている。実際に比較する実験を行ってきた成果であると考えられる。 ●水の蒸発や結露など、温度によって水の状態が変化することについて答える問題に課題が見られる。	・水を沸騰させて観察する実験や、結露している窓などの観察を通して、温度による水の状態の変化について概念的に理解できるよう指導を工夫していく。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」で肯定的な回答をした児童の割合は、98.0%であり、県の平均よりかなり高い。このことから、普段の学習において、知識・技能が定着するよう習熟を図ったり、テストでの間違い直しを徹底したりしていることが、結果として現れていることが分かる。今後も、分かるまできめ細やかな指導を継続していきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」で肯定的な回答をした児童の割合は、96.0%で、県の平均より高い。このことから、教師が一人一人のよさを認め励ます声掛けを意識的に行っていることが分かる。引き続き、児童の自己肯定感を高めていけるような声掛けを継続していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日まで)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む)」で否定的な回答をした児童の割合は、12.0%であり、県の平均より高い。このことから、学校外での学習習慣が身についていないこと分かる。今後は、学習した内容を定着させていくために、自主学習等で使える教材を積極的に活用したり学習方法についてのアドバイスをしたり、学校外での学習習慣の定着に向けて家庭の支援を呼びかけていく。

宇都宮市立西が岡小学校 (第6学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容